

CORPORATE HISTORY

青経塾の沿革

- ◎昭和49年 6月24日 塾主 遠山昌夫を囲んで第1青経塾発足(同友会事務所)
- ◎平成 5年 3月 7日 20周年記念事業・ウォーゲーム(木曾三川公園)
- ◎平成15年 4月19・20日 30周年記念事業・えんためばんばん祭(名古屋市中小企業振興会館)
- ◎平成19年12月 1日 在籍塾生数/1,244名

CURRICULUM FOR THREE YEARS

青経塾 卒業までの3年間カリキュラム

0

入塾前/躰とマナー

最低限のマナーと塾のルールを修得

1

一年目/知行合一

自分の甘さを排除し、品性と人格を向上させ、自分とは何かを探求

2

二年目/経営哲学

経営理念の確立と、剛さと優しさを持つリーダーへの成長

3

三年目/経営計画

経営計画の確立と、一人一人が経営者として光り輝く一瞬の演出

人生には今やらねばならない時がある

経営者は孤独である。和気あいあいと経営しているわけではなく、パートナーである社員さんとも指示を出す側、仰ぐ側という間柄上、一線を画してしまうことは否めない。同業者との付き合いも、同じ思考回路を持つ者同士会合を重ねて自分の経営のビジョンを作るためにどれだけ役立つだろうか。今の多様化の時代の中では生き残るために自社のコンセプトや機能を研ぎ澄ましていかなければならない。お客様に対してどんな機能に特化していくのか、自分の意志、志をはっきりさせる必要があり、そのためには業態や発想の違う異業種に交流を求め、視野を広げていくべきだろう。青経塾にはその土壌がある。喜怒哀楽をともにし、成長をしていける仲間がいる。その中でも伸び

ていく人と変わらない人がいる。伸びていく人達はどんな意志を持ち、どう行動しているのか、変わらない人は伸びていく人達のよいところをどんどん取り入れていくのがよい。過去の連続線上で生きていける時代は終わった。変化は激しく、地球の裏側で起こったことがあっという間にニュースとなって届く時代なのである。今いる場所は居心地が良いに決まっている。だからといって動かずにぬくぬく過ごしていれば、いつの間にか取り残されていく。長い人生には飛び込まねばならないときが必ずある。今飛び込むから未来へ繋がり、逃してしまえば跳び込めないままの人生が過ぎていくだろう。人生には今、やらねばならない時がある。

青経塾 塾頭/川本 芳裕

